

学校自慢

みんなの「いいね！」をみんなのために

東金市立東小学校校長 につた あつし 新田 篤



1 はじめに

表紙の写真は、昨年度本校が行った、創立50周年記念行事での「バルーンリリース」の一場面である。千葉県の東部、東金市に位置する本校は、601名の児童と54名の教職員が「ひとみ輝き 笑顔いっぱいのおつ子 ～夢や目標に向かってチャレンジする児童の育成～」の実現を目指す、地域に愛される小学校である。

2 みんなの「いいね！」をみんなのために

本校の職員は、今年度の重点「自己肯定感を高める学びと場の工夫」に努めている。また、子供は「みんなの『いいね！』をみんなのために」を合い言葉に、学校生活を日々楽しんでいる。

この「いいね！」の言葉は、昨年度から広めたものである。子供たちは、互いの「いいね！」を見付けたり、帰りの会等で発表し合ったりして、互いのよさを認め、生かしている。

私は、子供と会話する際に「いいね！カード」を渡すことで、コミュニケーションのきっかけとなるように努めている。また、集会や行事の際に、全校で「いいね！」の合い言葉を言うことで、意識付けを図っている。

3 東っ子支援会議

本校には、様々な家庭環境や発達障害等から、学校へのハードルが高かったり、登校しても居心地の悪さを感じていたりする児童が多くいる。そのような子供を、切れ目なく包括的に支援していくために「東っ子支援会議」

を創設した。

子供が抱える課題は多様かつ複層的である。したがって、様々な角度からの考察や分析、柔軟な対応や支援が必要である。この会議を充実させることで、従来、生徒指導や教育相談、特別支援教育等で取り上げてきた課題をワンストップで受け止め、より組織的に対応していく。「東っ子支援会議」は全員参加で、低・中・高学年の3部会に分かれて行う。課題を抱える子供を、複数の教職員で支援していくための第一歩である。

4 「三方よし」の学校づくり

地域と共に歩む学校・教職員を目指し、「三方よし」すなわち「子供よし、学校よし、保護者・地域よし」の学校づくりに取り組んでいる。

昨年度、卒業を間近に控えた6年生は、地域への恩返しとして、地域の美化活動に取り組んだ。地域の方々からのお礼の言葉は、子供たちを強く勇気付けた。

また、教職員は、地域行事に自発的に参加している。昨年度は、東金市主催の「ときめけ東金スポーツフェスティバル2023」や地元田間地区主催の「田間物語りレーマラソン」に参加し、チームとして好成績をあげている。子供たちは、自校の先生の活躍を目の当たりにし、憧れや尊敬の気持ちをもつことができた。また、保護者から親しみをもって受け入れられると共に、信頼関係も深めることができた。

「三方よし」の学校づくりは、着実に進んでいる。